

平成22年度 理事会議事録

【平成22年度 第1回理事会議事録】

開催日時：平成22年5月23日(日)12時30分～15時

場 所：東京医科歯科大学1号館9階 会議室

出席者：三村邦裕(理事長)、佐藤健次、吾妻美子、利光 央、
今井正、岩谷良則、狩野元成、小市加陽子、芝紀代子、
城田恵次郎、寺平良治、永尾暢夫、信岡学、森山隆則、
渡辺正友、大澤進(書面表決)、森田耕司(書面表決)、
合田清監事

1. 議事録署名人選任

佐藤健次副理事長、吾妻美子理事が選任された。

2. 報告事項

1) 平成21年度第5回理事会(平成22年3月13日実施)報告
(日臨技 生理検査項目の追加について)

平成22年3月4日付け社団法人日本臨床衛生検査技師会(以下 日臨技という)小崎繁昭会長より本協議会理事長宛に『生理学的検査の業務拡大について』意見を求められ、理事会にてメール審議を行った。今般の項目追加は、教育内容、時間数ともに対応可能である。又、業務制限のある生理検査の業務拡大は、臨床検査技師の資質向上に繋がることから、理事全員から承認された。回答書を平成22年3月15日に日臨技小崎会長宛に郵送したと報告された。

2) 第5回日本臨床検査学教育学会学術大会について
中間報告として、議題募集のホームページ掲載、大会ポスターの発送を行い、実行委員が精力的に活動している。特別講演「健康教養について」(中路重之(弘大))、教育講演①「可溶性ローヤルゼリー蛋白質の網羅的研究と生理活性について」(森山隆則(北大))、②「臨床検査としての出血時間測定の問題点-出血時間は不要な検査か?」(高見秀樹(弘大))、教員研修会テーマ「学生実習における危機管理マニュアル作成について」(同時開催)を行う予定であると述べた。又、ランチョンセミナー・抄録集作成等、今後の作業予定を付け加え報告された。

3) 第6回日本臨床検査学教育学会学術大会について

1. 開催日 平成23年8月17日(水)～19日(金)
2. 会場 新潟大学医学部保健学科
3. 大会長 渡辺正友(新潟医専)
4. 副大会長 岩淵三哉(新潟大)
副大会長 木村明(北里保衛専)
5. 実行委員長 次期大会長
6. 担当校 新潟医療技術専門学校
7. 主催 日本臨床検査学教育協議会
8. 後援 文部科学省 厚生労働省 予定
プログラム概要並びにポスター原案等を早期に定め、来年の開催に向けて準備を進めると報告された。

4) 退会について

平成22年2月23日付けにて藤田保健衛生大学短期大学は閉校のため平成21年度末をもって退会の届出があった。これにより、平成22年度正会員校数は72校となる。寺平良治理事(藤田保衛短)より藤田保衛大と発展的に統合するのであり、医療科学部と

して臨床検査技師教育を続けると述べ、協議会活動にも参加すると付け加え報告した。

5) 平成21年度本協議会の模擬試験について

受付会員校数38校、1,712部の申し込みがあった。残高9,970円は本協議会に納付された。平成22年度も引き続き近畿・中国・四国部会長吾妻美子理事が担当するとの確認がなされた。

6) その他の報告事項

① 明日、本年度第1回教育問題検討委員会及び大学指定校化委員会を開催する。

② 編集員委員会より本協議会学会誌は今後、教育学の研究方法を掲載する。また、編集委員会の担当を検討すると報告された。

3. 議案審議

1) 第一号議案 平成21年度事業経過報告について

平成21年度は、第4回日本臨床検査学教育学会学術大会の開催、各種部会、委員会への出席、臨床検査関連団体の行事参加、また、教育問題検討委員会、大学指定校化委員会を立ち上げ、日臨技会長との懇談会を実現した。文科省、厚生省及び各関連学術団体との連絡協議等を行った旨の報告がされた。以上の事業経過報告について承認された。

2) 第二号議案 平成21年度決算報告について

収支計算書に基づき、事業活動収入計 9,382,862 円、事業活動支出は事業費支出・管理費支出・積立金を合計し 10,464,688 円、財務活動収支差額 1,000,000 円、次期繰越金 6,963,207 円となることが報告された。平成21年度の決算報告について承認された。

3) 第三号議案 平成21年度監査報告について

平成21年度の会計帳簿及び事業報告の内容を監査した結果、会計は正確に処理されており、又会務も適正に運営されていると報告された。以上の監査報告について承認された。

4) 第四号議案 平成22年度事業計画案について

年間を通じて、文部科学省、厚生労働省、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査医学会等の各関連学術団体、臨床検査業関連との連絡・協議をする。また、第5回学術大会開催や部会・委員会活動を行なうなどの説明がなされた。以上の事業計画案について承認された。

5) 第五号議案 平成22年度予算案について

今年度の事業活動収入は、正会員会費5万円、賛助会員費10万円を請求し、一般会費収入の予算額は370万円(72校)、特別会費収入等を加え事業活動収入計1,110万円を計上した。事業活動支出は、第5回学術大会の開催、各委員会等の会議費用、学会誌発刊並びに租税公課では役員登記のための登録免許税を計上し、事業活動支出計は、1,110万円を計上した。財務活動収支差額50万円、次期繰越金7,463,207円となると説明された。本年度予算案について承認された。

6) その他の議案

① 50周年記念事業について

昨年の臨時総会において平成22年12月12日開催とし、会場の選定等の準備を進めていた。しかし、本事業の中心であった事務局長大西英文常務理事が4月22日逝去され、計画を予定通り進めることが困難となった。従って、開催を延期したい。また、多くの方に、参加していただくために来年度の定時総会の前日開催にしたいと述べた。又、佐藤健次副理事長から医歯大M&Dタワーを会場にとの提案があった。本件について承認された。

② 常務理事(事務局長)の選任について

常務理事が不在の状態であり、選任する必要がある。常務理事の選任は定款12条第2項により、理事長が指名すると定めているが、大西常務理事が逝去され日も浅く、後日、選任したいと述べた。本件について承認された。

③ 緊急臨床検査士認定試験合同委員会(同学院主催)報告
緊急検査士の受験者が増加し続けており、会場が不足している。会場を確保するために、会員校の協力を広く求めたいとの提案があった。本件について承認された。

平成22年5月23日(日)

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会

議長	三村 邦裕	印
議事録署名人	佐藤 健次	印
議事録署名人	吾妻 美子	印

【平成22年度 第2回理事会議事録】

開催日時：平成22年8月18日(水)13時10分～13時50分

場 所：弘前大学大学院保健学研究科A棟2階 セナール3・4室

出席者：三村邦裕(理事長)、佐藤健次、大瀧進、吾妻美子、利光 央、今井正、小市加陽子、芝紀代子、城田恵次郎、寺平良治、永尾暢夫、信岡学、森田耕司、森山隆則、渡辺正友、岩谷良則(書面表決)、狩野元成(書面表決)、合田清(監事)、木田和幸(第5回大会長)

1. 議事録署名人選任

寺平良治理事、森田耕司理事が選任された。

2. 報告事項

1) 第5回日本臨床検査学教育学会学術大会について
学会申込み総数は166名(内学生20名)、式典及び懇談会113名(内学生3名)が参加予定である。又、一般観覧者79名(内学生12名)であと報告された。

2) 第6回日本臨床検査学教育学会学術大会について

1. 開催日 平成23年8月17日(水)～19日(金)
2. 会場 新潟大学医学部保健学科
3. 大会長 渡辺正友(新潟医専)
4. 副大会長 岩淵三哉(新潟大)
副大会長 木村明(北里保健衛)
5. 実行委員長 寺平良治(藤田保健衛大)
6. 担当校 新潟医療技術専門学校

7. 主 催 日本臨床検査学教育協議会

8. 後 援 文部科学省 厚生労働省 予定

プログラム概要並びにポスター原案等を早期に定め、来年の開催に向けて準備を進めると報告された。

3. 議案審議

1) 第一号議案 ダブルライセンスの問題について

4年間で臨床検査技師と臨床工学士のダブルライセンスの取得を目指す大学が来年度新設される。文部科学省並びに厚生労働省では、承認科目の履修を満たしていれば設置を容認する方向にある。このことは臨床検査技師の質の低下が懸念され、継続審議をすることで承認された。

2) 第二号議案 大学指定校化について

教育制度(承認科目制)上ダブルライセンスの取得が可能となる現状において、臨床検査技師の質を担保する方法を早急に検討する必要がある。今後の対応を図るためにも、アンケート調査を実施することが承認された。

3) 第三号議案 日本臨床検査学教育協議会正会員の資格について(定款の変更)

本協議会の正会員は定款第5条第1号により、臨床検査技師養成の養成期間と規程されているが、教育方法が多様化することが予想されるため、正会員の資格について継続審議をすることで承認された。

4) 第四号議案 50周年記念事業について

開催日：平成23年5月22日(日)

会 場：東京医科歯科大学大学院 M&D タワー大講堂

① 担 当(〇印は委員長)

◇実行委員：〇三村邦裕(理事長)

◇式典委員：〇佐藤健次、芝紀代子、寺平良治、森山隆則

◇懇親会委員：〇利光 央、今井正、小市加陽子、永尾暢夫

◇渉外委員：〇大瀧進、〇吾妻美子、城田恵次郎、信岡学、岩谷良則

◇記念誌委員：〇森田良則、狩野元成、渡辺正友

以上の理事が役割を分担する。

② 関連団体

文部科学省、厚生労働省、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査医学会、日本衛生検査所協会、日本臨床検査同学院、日本医師会、関連学校協議会(看護、臨床工学、放射線、理学療法など)を招聘する。

③ 記念フォーラムは今後メール等で演者を選定する。

以上が承認された。

年間を通じて、文部科学省、厚生労働省、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査医学会等の各関連学術団体、臨床検査業関連との連絡・協議をする。また、第5回学術大会開催や部会・委員会活動を行なうなどの説明がなされた。以上の事業計画案について承認された。

5) 第五号議案 第7回日本臨床検査学教育学会学術大会について

開催日：平成24年8月22日(水)～24日(金)

会 場：名古屋国際会議場(予定)

大会長：寺平良治大会長(藤田保健衛生大学教授)

とすることが承認された。

平成22年8月18日(水)
 一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会
 議長 三村 邦裕 印
 議事録署名人 利光 央 印
 議事録署名人 芝 紀代子 印

【平成22年度 第3回理事会議事録】

日時：平成22年9月13日(月) メール審議

1. 議案審議

1) 第一号議案 ダブルライセンスの問題について

4年間で臨床検査技師と臨床工学士の国家資格取得を目指す大学が来年度新設される。医療従事者をめざす学生にとって、4年間頑張れば2つの資格を取得できることは魅力的であり、個人の資質の向上にも繋がる。医療現場にとっても、資質の高い者の採用は望まれるところと考える。懸念されることは、国家試験取得のみに偏重した教育に伴い、技術能力に欠け、倫理観の乏しい医療人の輩出にある。本協議会として、学生達が夢を持って巣立っていけるよう日本臨床衛生検査技師会、日本臨床工学技士会、日本臨床工学技士教育施設協議会などの関連団体と早急に協議することで承認された。

2) 第二号議案 50周年記念事業について

理事の役割分担の枠を超えた協力体制が必要との意見に応じ、早急に実行委員を理事長が選任する。又、東京での開催を考慮し、首都圏を中心とした委員の構成とすることで承認された。

教育制度(承認科目制)上ダブルライセンスの取得が可能となる現状において、臨床検査技師の質を担保する方法を早急に検討する必要がある。アンケート調査の実施と併せて、今後の対応を図るため継続して審議を行うことが承認された。

【平成22年度 第4回理事会議事録】

日時：平成22年12月2日(木) メール審議

1. 議案審議

1) 第一号議案 事務局長選任について

前事務局長大西英文先生のご逝去に伴い新たな事務局長を選任する必要がある。定款12条第2項により常務理事(事務局長)は、理事長に選任権が与えられており適任者を探した。今般、新渡戸文化短期大学教授の伊藤正三氏から内諾を得ることができ、後任の常任理事(事務局長)として推薦したい。本件について異議なく承認された。

【平成22年度 第5回理事会議事録】

開催日時 平成22年12月12日(日) 11時～14時30分
 場所 東京医科歯科大学 1号館9階会議室
 出席者 三村邦裕(理事長)、佐藤健次、大澤進、吾妻美子、利光央、今井正、岩谷良則、狩野元成(書面表決)、

小市加陽子、芝紀代子、城田恵次郎、寺平良治、永尾暢夫、信岡学、森田耕司、森山隆則(書面表決)、渡邊正友

1. 議事録署名人選任

利光央理事、芝紀代子理事が選任された。

2. 報告事項

1) 第5回日本臨床検査学教育学会学術大会報告

開催期間 平成22年8月18日(水)～8月20日(金)

会場 弘前大学大学院保健学研究科

メインテーマ 『新時代への胎動』

臨床検査の教育・研究の発展に向けて

会場入場者 166名(延べ人数)一般:146名、学生:20名

後援 文部科学省、厚生労働省

大会長 木田和幸(弘前大学院)

副大会長 信岡学(北海道医専)、

森山隆則(北大大学院)

実行委員長 渡邊正友(新潟医専)

副実行委員長 中村敏也(弘前大学院)

プログラム委員長 高見秀樹(弘前大学院)

事務局 谷口智也(昭和美専)

担当校 弘前大学大学院

木田大会長より以上盛会の内、無事閉会した。また、収支計算の結果 50,123 円の黒字となったことが報告された。

2) 第6回日本臨床検査学教育学会学術大会報告

開催日 平成23年8月17日(水)～19日(金)

会場 新潟大学医学部保健学科

大会長 渡邊正友(新潟医専)

副大会長 岩淵三哉(新潟大)

副大会長 木村明(北里保衛専)

実行委員長 寺平良治(藤田保衛大)

担当校 新潟医療技術専門学校

主催 日本臨床検査学教育協議会

後援 文部科学省 厚生労働省

文部科学省・厚生労働省の後援名義使用許可も戴き、今後は地元企業に向けてPRを進めると報告された。

3) 学会誌第3巻1号の発刊について

目次案に沿って掲載内容の説明があった。総説、主張等について執筆者を選定したいとの報告があった。

4) 教育問題検討委員会について

◇ 第1回教育問題検討委員会

日時 平成22年5月24日(月)10時30分～12時30分

場所 東京医科歯科大学 1号館9階会議室

議題 1) 関連団体との協力体制のあり方について

2) その他

◇ 社団法人日本臨床衛生検査技師会との会談

日時 平成22年7月5日(月)13時～16時

場所 社団法人日本臨床衛生検査技師会

議題 1) 臨床検査技師の教育問題について

2) その他

◇ 文部科学省との会談

日時 平成22年8月6日(金)13時30分～14時30分

場所 文部科学省高等教育局医学教育課

担当官:医療技術係長 吉田将路 氏

- 議題 1) 臨床検査技師の教育問題について
2) その他
- ◇ 厚生労働省との会談
日時 平成22年8月6日(金)午後3時～午後4時
場所 厚生労働省医政局医事課
担当官:指導係 藤本 晃 氏
- 議題 1) 臨床検査技師の教育問題について
2) その他
- ◇ 第2回教育問題検討委員会
日時 平成22年8月19日(木)17時30分から19時30分
場所 弘大大学院保健学研究科総合研究棟5階21講義室
- 議題 1) 指定校化とダブルライセンスについて
2) その他
- ◇ 日本臨床工学技士教育施設協議との会議
日時 平成22年9月21日(火)10時～14時
場所 日本臨床工学技士教育施設協議会事務局
杏林大学保健学部臨床工学科内
嶋津秀昭会長、中島章夫事務局長
- 議題 1) 臨床工学技士と臨床検査技師の教育について
2) その他
- ◇ 日本臨床衛生検査技師会
日本臨床検査学教育協議会合同会議
日時 平成22年11月29日(月)14時～16時
場所 日本臨床衛生検査技師会事務局
日臨技: 高田鉄也会長 川原緑課長
- 議題 1) ダブルライセンス取得に係わる対応について
2) 臨地実習の期間について
3) 指定校化について
4) その他
- ◇ 第3回教育問題検討委員会
日時 平成22年12月12日(日)15時～17時
場所 東京医科歯科大学 1号館9階会議室
- 議題 1) 日臨技との会合について
2) 4者会談について
3) その他
- 5) 大学指定校化委員会報告
- ◇ 第1回大学指定校化委員会
日時 平成22年5月24日(月)10時30分～12時30分
場所 東京医科歯科大学 1号館9階会議室
- 議題 1) アンケート調査内容について
2) その他
- ◇ 第2回大学指定校化委員会(メール審議)
日時 平成22年11月15日(月)
- 議題 1) アンケート調査内容について
2) その他

- ◇ 大学指定校化に関するアンケート調査実施
日時 平成22年11月19日(金)
内容 A. 大学指定校化に関するアンケート調査の趣旨
B. 医療関係技術者養成制度
C. 大学の指定校化に関するアンケート(回答用紙)

3. 議案審議

- 1) 第一号議案 事務局長選任について
第4回メール審議の結果全員からの賛成が得られた旨の説明がされ、改めて全員一致で承認された。

- 2) 第二号議案 ダブルライセンスについて
理事会資料27頁の臨床検査技師国家試験に係わる科目並びに現行の臨床検査技師国家試験受験資格を確認し、本協議会としては、本件を否定しないが、質の低下を招かないよう文科・厚生省及び関連団体に要望を続けることで承認した。

3) 第三号議案 50周年記念事業について

- 実施日 平成23年5月22日(日)
場所 東京医科歯科大学 M&Dタワー大講堂
① 式典 ② フォーラム
東京医科歯科大学 M&Dタワー
ファカルティラウンジ予
③ 祝賀会

タイムスケジュール(予定)

- ① 式典 : 13時～14時
② フォーラム : 14時30分～17時
③ 祝賀会 : 17時30分～20時

4) その他の議案

① 新規入会について

広島国際大学保健医療学部臨床工学科から入会申請書が理事長宛に提出された。来年度より臨床工学士と臨床検査技師の両資格の受験資格を得られることが承認され、学生募集をしている。従って、現在、在校生はおらず、来年度、入学者が決定してから改めて、入会の審議をすることで承認された。

② 役員選考委員会について

次期理事長選挙に伴う、役員選考委員会の選任を理事長が行うことで承認された。

平成22年12月13日(日)

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会

議長	三村 邦裕	印
議事録署名人	利光 央	印
議事録署名人	芝 紀代子	印

定時総会・評議員会・臨時総会の報告

【平成22年度 定時総会】

開催日時：平成22年5月24日(月)13時～17時
 場 所：東京医科歯科大学5号館4階講堂
 加盟校数：72校
 出席校数：72校(委任状を含む)
 参加人数：101名

1. 開会の辞(理事長挨拶)

2. 報告事項

- 1) 平成21年度第5回理事会(平成22年3月13日実施)報告
(日臨技 生理検査項目の追加について)
- 2) 第5回日本臨床検査学教育学会学術大会について
- 3) 第6回日本臨床検査学教育学会学術大会について
- 4) 退会について
- 5) 平成21年度本協議会の模擬試験について
- 6) その他の報告事項

① 平成22年度第1回教育問題検討委員会報告
 多くの問題点がある中で、当委員会は臨地実習の充実に焦点を絞り、日本臨床衛生検査技師会と指導者育成、実習期間・内容等について協議する。

② 平成22年度第1回大学指定校化委員会報告
 この度の委員会は日程の都合により委員会は開催しなかったが、参加できた委員で今後の活動の方向性を話し合った。今後の臨床検査技師の発展を考える上で指定校化するメリット、デメリットを議論した上で夏前にはアンケート調査をする。

③ 短期大学・専門学校部会報告
 部会30校全て出席し、3年制教育が抱える諸問題について講演及び質疑応答が行われ活発な会となった。
 講演1.「学生募集状況と今後の課題」
 小林隆志(東洋公衛).
 講演2.「3年生養成校の臨地実習の問題点」
 小市加陽子(近畿医専).
 講演3.「国家試験対策の現況」 木村明(北里保専).

④ 緊急臨床検査士資格認定試験合同委員会報告
 緊急検査士認定試験の受験者が急増し、会場が不足している現状があり、会員校に積極的な会場提供をお願いした。

3. 議長選任

議長 利光 央(美萩野医専)

4. 議案審議

- 1) 第一号議案 平成21年度事業経過報告について
 全会一致で承認された。
- 2) 第二号議案 平成21年度決算報告について
 全会一致で承認された。
- 3) 第三号議案 平成21年度監査報告について
 全会一致で承認された。

4) 第四号議案 平成22年度事業計画案について
 全会一致で承認された。

5) 第五号議案 平成22年度予算案について
 全会一致で承認された。

6) その他の議案

a) 平成22年度卒業(修業)証明書の提出について
 厚生労働省医政局試験免許室から調査の依頼を受け、本年4月12日付けアンケート調査を行った。全施設のうち2施設は困難との回答であった。回答結果をもとに厚労省と話し合いを行い、再度日程等報告したい。

b) 本協議会50周年記念事業について
 昨日の理事会において50周年記念事業の開催は延期とし、改めて平成23年5月22日(日)、会場は東京医科歯科大学M&Dタワー大講堂で行いたい。

上記a), b)について承認された。

5. 講演

『ISOに基づき臨床検査室に求められるもの』
 ～国際的潮流～

社団法人 東京都臨床検査技師会 会長

財団法人 日本適合性認定協会 認定センター 部長補
 下田 勝二 様

6. 文部科学省・厚生労働省からの指導・助言

文部科学省 高等教育局医学教育課
 医療技術係長 吉田 将吾 様
 厚生労働省 医政局医事課 指導係 藤本 晃 様

【平成22年度 学会評議員会】

開催日時：平成21年8月19日(水)11時30分～12時30分
 場 所：東京医科歯科大学 I期棟2階医学科講義室2
 参加人数：75名

1. 第一号議案 第6回日本臨床検査学教育学会学術大会について

開催日：平成23年8月17日(水)～19日(金)

会 場：新潟大学医学部保健学科

大会長：渡邊 正友(新潟医専)

副大会長：岩淵 三哉(新潟大教授)

副大会長：木村 明(北里大保健専副学院長)

実行委員長：寺平 良治(藤田保健大教授)

担当校：新潟医療技術専門学校

主 催：日本臨床検査学教育協議会

後 援：文部科学省 厚生労働省 予定

文科・厚生労働省の後援名義使用許可、プログラム概要並びにポスター原案等を早期に定め、来年の開催に向けて準備を進めると説明があり承認された。

2. 第二号議案 第7回日本臨床検査学教育学会学術大会 について

開催日：平成24年8月22日(水)～24日(金)

会場：名古屋国際会議場(予定)

大会長：寺平良治大会長(藤田保衛大教授)

との説明があり承認された。

3. 第三号議案 平成21年度日本臨床検査学教育学会の アンケート調査結果について

実施日：平成21年6月19日

対象：正会員校の教職員

調査内容：日本臨床検査学教育学会ならびに学会誌に
関するアンケート

◇質問内容

現在、学会誌は各学校に数冊ずつ送付することになっております。それは、学会が個人会員制になっておらず学校単位で会員になっているためです。今後、もし個人会員制となれば学会発表、学会誌の投稿、学会誌の送付等は個人会員に限られません。今後の学会発展のために質問をいたします。

I. 日本臨床検査学教育学会について

問1 学会を個人会員制にすることに賛成ですか。

1. 賛成(31%)、2. 反対(32%)、3. どちらでも良い(36%)

問2 問1で賛成と答えた人に質問いたします。学会費を個人から徴収することに対して賛成ですか。(1～3の番号でお答え下さい。)

1. 賛成(94%)、2. 反対(1%)、3. どちらでも良い(4%)

問3 問1で『2. 反対』と答えた人に質問します。その理由をお教え下さい。

〔回答抜粋〕・会員数の減少に繋がるのが危惧される。・学校として共通認識ができるほうが良いと思います。・現行で問題ない。・学校として共通認識ができるほうが良いと思います。・個人会員制にすると、教育施設のみで会員となる可能性がある。臨地実習施設など広く学会参加者を期待することが難しくなるのではないかと思います。・臨床検査技師教育施設に所属する教員は、誰でも学会発表、学会誌への投稿ができるようにして、個人会員制にしないほうが、学会発展につながると考える。・公立の養成校であるため、教務職員は数年単位の人事異動があることから、個人会員制はそぐわないと考えます。など

問4 問2で『1. 賛成』と答えた人に質問します。

学会費としていくらが適当と考えますか。

5,000円(37%)、3,000円(44%)、1,000円(10%)、その他(10%)

問5 学会に関するご意見をお聞かせ下さい。

〔回答抜粋〕・学会の形式をとるのではなく、協議会の中で検査学教育の継続的改善を行うべきだと思います。・一般の研究発表は、それぞれの専門学会で発表すべき。・大変、有意義な会なので今後のますますの発展を願います。・教育に携わる者にとって重要な学会だと考えています。大学と専門学校があり、様々な情報が偏ることなく発信していただきたい。

II. 次に学会誌『臨床検査学教育』について質問します。

問1 全体の構成について

1. とても良い(2%)、2. 良い(34%)、3. 普通(61%)、4. あまり良くない(2%)、5. 良くない(1%)、

問2 問1で『4. あまり良くない』、『5. 良くない』と答えた人に質問いたします。具体的に良くない部分をお教え下さい。

〔回答抜粋〕・「関連学会報告」も教育に関する視点からの報告とすべき。・教育学会なら学生(臨床検査技師)教育に特化すべきである。・大学は教育・研究の場であるので、教育方法のみに片寄るのはいかがか?・ニュースレターで十分。

問3 投稿原稿区分で充実してほしい区分をお教え下さい。

1. 原著(23%)、2. 報告(42%)、3. 主張(11%)、4. 資料(22%)、5. レター(3%)

問4 投稿原稿区分に新たに加えた方が良い区分があればお教え下さい。

〔回答抜粋〕・報告・主張をどうして通常の論文誌とはニュアンスの異なる内容であっても良いのではと思います。・研究(学生・院生)、教育上工夫していることや逆に困っている事に対する意見や情報交換の場。・卒業生が活躍している分野で、新しい職種を紹介とか。学内実習の工夫とか。など

問5 依頼投稿原稿区分で充実してほしい区分をお教え下さい。

1. 総説(23%)、2. 施設紹介(23%)、3. 研究室紹介(23%)、4. 資料(23%)、5. 書評(23%)、

問6 依頼原稿区分に新たに加えた方が良い区分があればお教え下さい。

〔回答抜粋〕・臨地実習施設の問題点、教育内容、意見などをリレー方式で掲載して欲しい。・臨床検査技師やその関連分野で活躍している人の紹介。・単なる1案です。討論会と称し、1巻1号の96頁に学会誕生の経緯に紹介されている、夏期教員研修会で行われた「教育者としての人間性」や「学生の教師の哲学」などのテーマで討論会を行い(メール会議の様にしても良い)、その内容を記載する。など

問8 「研究紹介」で紹介してほしい研究論文があればご紹介下さい。回答無し

問10 その他、学会誌に関してのご意見をお書き下さい。

〔回答抜粋〕・更に充実した内容を持つ学会誌に成長することを期待しています。・臨床検査学は、専門分野が広く、学会誌の偏重は避けられないと思うので、広い分野でも応用できる教育方法論(講義、実習など)や学生心理学などの執筆をお願いしたい。・学生への指導方法や、青年期の学生への対応など教育心理学等に関する内容も加えて欲しい。など

以上アンケート報告がされ、より良い学会の開催、並びに学会誌の編集に向け、今後も検討することで承認された。

【平成22年度 臨時総会】

開催日時：平成22年12月13日(月)13時～17時

場所：東京医科歯科大学1号館9階 特別講堂

加盟校数：72校

出席校数：72校(委任状を含む)

参加人数：79名

1. 報告事項

- 1) 第5回日本臨床検査学教育学会学術大会について
- 2) 第6回日本臨床検査学教育学会学術大会について
- 3) 学術誌第3号発行について

- 4) 教育問題検討委員会報告
 5) 大学指定校化委員会報告
 6) 専門学校から大学院大学設立について
 上記 1)～6)について報告された。
2. 議長 利光 央(美萩野臨床医学専門学校 校長)
3. 議案審議
- 1) 第一号議案 事務局選任について
 伊藤 昭三 氏(新渡戸文化短期大学教授)
 事務局も来年度定時総会をもって移転する。
- 2) 第二号議案 ダブルライセンスについて
 臨床検査技師教育の質の低下を招かないよう文科・厚生省及び関連団体に要望を続ける。
- 3) 第三号議案 50周年記念事業について
 実施日 平成23年5月22日(日)
 場 所 東京医科歯科大学 M&Dタワー大講堂
 ① 式典 ② フォーラム
 東京医科歯科大学 M&Dタワー
 ファカルティールラウンジ予
 ③ 祝賀会
 タイムスケジュール(予定)
 ① 式典 : 13時～14時
- ② フォーラム : 14時30分～17時
 ③ 祝賀会 : 17時30分～20時
 上記 1)～3) について承認された。
- 4) その他の議案
 ① 新規入会について
 広島国際大学保健医療学部臨床工学科からの入会申請は、現在、在校生はおらず、来年度、入学者が決定してから改めて入会の審議をすることで承認された。
- ② 役員選考委員会について
 次期理事長選挙に伴う、役員選考委員会の選任を理事長が行うことで承認された。
4. 講演
 『医療教育の抜本的改革と自己組織化』
 ～臨地実習における指導者教育について～
 社団法人日本臨床衛生検査技師会 会長 高田 鉄也 氏
5. 文部科学省・厚生労働省からの指導・助言
 文部科学省 高等教育局医学教育課
 医療技術係長 吉田 将路 氏
 厚生労働省 医政局医事課 指導係長 藤本 晃 氏